

# 岩船沖洋上風力発電事業 地域説明会で寄せられた質疑・意見等(抜粋)

開催日 平成30年1月14日

会場 岩船地区

区分	質疑・意見等	回答・コメント	備考
事業性評価結果に関する事	3. 6MWの風力発電施設にかかる建設費は、どのくらいで見積もられていたのでしょうか。	1990年代のイギリスにおけるkW単価と同等となる約65万円/kW程度で見積もっておりました。 国内で、実際に事業が始まってくれば競争原理が働き、5年間から10年間程度で建設費は下がると考えております。(日立造船)	
	発電事業終了後の撤去方法は、海面上部分の撤去なのか、海中部分を含めた撤去なのか、それとも全て引き抜く撤去なのか、どのように計画していたのかお聞きしたい。	現在、撤去方法に係わる一般海域の法整備が明確になっておりません。 漁業に影響が無いように、海底部分の一部を含めた上部の撤去方法もありますが、技術が確立されれば、基礎部分も引き抜く撤去方法で検討しております。(日立造船)	
	コンソーシアムは、この工事について手を引いたと考えて良いのでしょうか。	今回はコストが合わないため休止させていただく判断です。 我々としては、今後、コストが下がって事業の可能性が向いてくれば、もう一度、応募させていただいて、そこで地域の活性化のアイデア等も審査していただき、出来る事なら事業をさせていただきたいと思っています。(日立造船)	
推進委員会に関する事	岩船に、やはり洋上風力発電が必要となった場合、良い方向に持って行けるように、これからも考えてもらいたい。	今回、電力系統連系等いくつかの課題が浮き彫りになりました、これをクリアすることができれば、この事業を進める事ができるのだらうと思っております。 これまでの積み上げてきた検証結果、研究、これらは絶対に無駄になりません。 皆様方から大いなるご決断をいただいた事を踏まえて、この取り組みを次の世代に繋いでいくためにも推進委員会を継続し、これからもしっかりと取り組んでまいります。	
	村上市は、また発電予定事業者を決めるためには、改めて公募を行って決める事になると考えて良いのでしょうか。	これまで取り組まれてきた事業者は、この地の各種調査データを所有されていますので、非常に有利な面がありますが、これからどのような形で進めていくかは白紙であり、今後、しっかり取り組んでいきたいと考えております。	
	前回の推進委員会では、高い技術力を持つ海外の事業者と交渉すべきとの意見が出ておりました。 日本企業の日立造船さんは、これまで一生懸命研究を進めながら頑張ってくれました。 簡単に海外の企業と交渉する意見には、ショックを受けました。	これまでのコンソーシアムの皆さんが取り組まれてきた事に、私たちは敬意を表しなければなりません。 今後の事業者の参入方法については、改めて検討していく事でお話しさせていただいております。	

区分	質疑・意見等	回答・コメント	備考
その他	<p>オランダあたりの風景を見ると、港湾の岸壁近くにも風車を見ることができます。洋上風力だけではなく、陸上風力にも目を向ける考えはないのでしょうか。</p>	<p>日本は地形の問題もありますが、一昨年、港湾法が一部改正され、港湾区域内での風力発電建設が容易に行えることになりました。</p> <p>今後、港湾内の計画が進んでいくことで、いずれ一般海域の法制度にも適用されていくと言った、大きな流れになるのだろうとっております。</p>	
	<p>風況調査の結果、風が弱いとのデータが出たことを、以前の説明会で聞きました。岩船港湾内では期待できないのではありませんか。</p>	<p>港湾区域内における国内の計画は、様々なメディアで取り上げられている話であり、岩船港湾内に建設する事は、現状では考えておりません。</p> <p>岩船港が、ベース基地として機能を果たすことに、大きな期待を抱いておりました。</p> <p>今後、発電施設の機能が向上され、エネルギー変換の効率化が進めば、弱い風でも発電が可能となる等も含め、今後、検討を進めてまいります。</p>	